

令和2年度 参加と協働市民フォーラム

第5回

# 狛江☆サミット

実施報告



令和3年3月

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会  
狛江市市民活動支援センター（こまえくぼ 1234）  
狛江市

## 目的

各団体がコロナ禍においてどのような活動をしているか、双方向での交流の方法、オンラインの活用等についてグループトーク等を通して学び・共有することで日頃の悩み等の解決へのヒントを発見する機会とする。また、同じ分野で活動している団体との交流の機会を創出する。

## タイトル

コロナ禍で考える市民活動の新しいスタイル

## 主催／企画運営

主催：狛江市市民参加と市民協働に関する審議会  
狛江市市民活動支援センター（こまえくぼ 1234）  
狛江市

## 日時・場所

令和3年2月27日（土） 午前10時～11時30分  
狛江市防災センター4階会議室

## 参加者

- ・ 団体参加者：15人
  - ・ 市民参加と市民協働に関する審議会委員：4人
  - ・ 狛江市市民活動支援センター運営委員：2人
  - ・ 市事務局：3人
  - ・ 狛江市市民活動支援センター（こまえくぼ 1234）：3人
- 計 27人

## 当日の流れ

- 10:00 開会挨拶 <狛江市企画財政部政策室長>  
10:05 導入 講師：上田 英司さん  
日本 NPO センター事務局次長  
狛江市市民活動支援センター運営委員長  
10:25 グループトーク  
11:05 発表  
11:20 講師総括・質疑応答  
閉会あいさつ <狛江市市民活動支援センター長>

## 導入

### ■みなさまにとって、どのような1年だったでしょうか？

ちょうど一年前の2月くらいがコロナの報道が出始めた時期だったと思います。その時にこのような状況になるとは皆さん想像していなかったと思います。行政の方も相当大変だったと思いますし、本日参加している団体の中でも、様々な一年があったと思います。

皆さんにとってどのような一年だったでしょうか。団体によっては活動ができなくなったり逆にニーズが増えて本当に慌ただしい一年になったという団体もあったと思います。今日はぜひそういう一年を振り返ってみましょう。

「三密を避けましょう」と言われながらも、集まって会話をしてコミュニケーションを取りながら人と人との関係を紡ぐことが私たちの一番の得意分野だったと思いますが、ある意味それらすべてを社会的な状況の中で「ストップしましょう」という本当に歯がゆい一年だったのではないかと思います

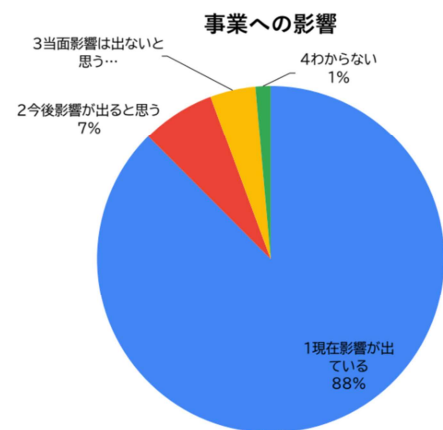


(講師) 上田 英司さん

### ■市民活動への影響

私たち日本NPOセンターは全国のNPOの皆さんを支援するような組織です。こまめくぼもそういった支援機能を持っていますし、本日参加している東京ボランティア市民活動センターも同じです。全国各地に市民活動団体を支援する組織があり、ボランティアの紹介や団体の運営相談などを行っています。

全国の組織と一緒に昨年の夏に緊急アンケートを取りました。全国の団体に対しコロナの影響についてアンケートを取ったところ88%の団体から活動に影響が出ているという回答がありました。アンケートから既に半年以上経っているので、より多くの団体に影響があったのではないかと思います。



新型コロナウイルス感染拡大への対応及び支援に関する  
NPO 緊急アンケート報告書  
実施主体:「新型コロナウイルス」NPO 支援組織社会連帯(CIS)  
(事務局:日本NPOセンター)

#### (事業に対する影響)

「どこに影響がありましたか」という設問では、「感染症対策」をとらなければいけないことや「事業の縮小・中止」、またこれは本当に大きなところだったと思いますが「モチベーション低下」等が挙げられています。

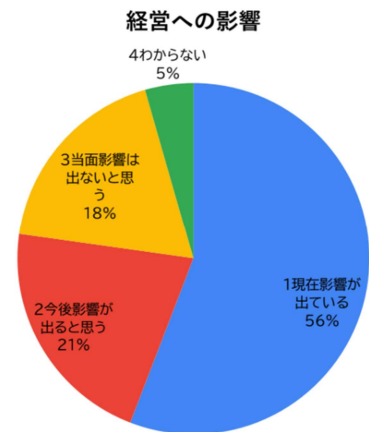
また、ボランティアの皆さんが今までは駆けつけてくれたけれど、活動ができなくなって

何ヶ月も経ち「緊急事態宣言が明けたので活動を始めましょう」と声掛けをした時にどれだけの方が戻ってきてくれたか、というところがあったのではないかと思います。実際にプロジェクトを予定していたのだけれど実施ができない、全部無くなりました、キャンセルになりました、それが非常に大きな収入源だった団体は本当に大変だったのではないかと思います。

### (経営に対する影響)

経営への影響もかなりあったのではないかと思います。実際に昨年夏時点で56%の団体で影響が出たという回答がありました。NPO法人以外でも任意団体や一般社団法人など様々な法人格で活動ができますが、各自治体のコロナの影響に対する対策費などがNPO法人は対象だが一般社団法人は駄目とか任意団体は駄目など都道府県毎に判断が分かれることがあったり、最初の頃は寄付収入が減ったという団体がたくさんありました。

皆さんの団体はどうだったでしょうか。寄付金は任意の皆さんからの共感によるお金であり事業をしているわけではないサービスへの対価は寄付ではないので、そうすると持続化給付金の収入項目の中に収入が減りました、企業からの寄付金が減りました、個人からの寄付金が減りましたとなった時に「寄付金は事業ではありません」というのが最初の解釈だったのです。ただ、特に認定NPO法人は法人格の中でもNPO法人より税制の優遇がより受けられるような法人格であり、そのような場合はより寄付がたくさんある方が認定の条件になっていることから、全国のNPOを支援する組織が働きかけをして寄付金も対象になることになりました。こうした様々なことがこの一年間の中で議論されてその在り方というのも考えさせられた一年だったと思います。



新型コロナウイルス感染拡大への対応及び支援に関する  
NPO 緊急アンケート報告書  
実施主体: 「新型コロナウイルス」NPO 支援組織社会連帯(CIS)  
(事務局: 日本 NPO センター)

### (今後の運営において懸念されること)

昨年夏時点でも懸念されることはたくさんあったのではないのでしょうか。事務所の人件費や家賃のこと、事業継続するための事業費の確保ができないですとか雇用の維持ができない、感染予防対策をどのようにしていこうかなどの不安があったと思います。

このような経営に関するところは大きな課題だと思います。特に環境系の団体はコロナの影響が非常に多く出始める以前は助成金や団体を応援するようなお金が民間からたくさん出ていましたが、それ以降は環境保全などのプロジェクトへの助成金が大幅に減り、新規で出てくるものは殆どなかったと言われています。困難な状況にある人を応援したいという申し出は我々のところにもたくさん来たのは事実です。一方で環境保全などこれまで長く取り組まれてきた活動については新規での御相談はなかったのです。そういう環境保全をしている団体は不要不急のことなのかなど様々な議論がありました。そういったところに資金的な援助が付かなかったということも非常に大きな課題になったと思っています。

このような緊急事態時において、非常に多様な価値観や文化などすべて包摂的にやっ  
ていこうという中で民間や行政がどのようなところに優先的に資金を出していくかという難しい  
判断があったのではないかと思います。

## ■市民活動の新しいスタイル

### (困難なことばかりだったでしょうか・・・)

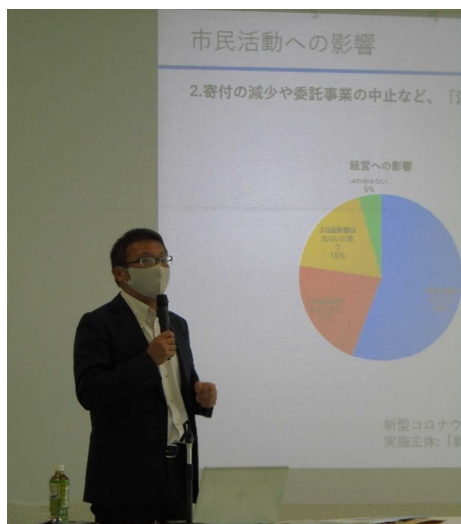
本当に困難なことが多い一年だったと思いますが、一方でオンラインの活用等新しいこと  
にチャレンジをしてきたのではないのでしょうか。

我々も様々なチャレンジをしてきましたが、いくつかの団体に「今年一年どうでしたか？」  
とヒアリングを行ったところ、障がいのある方向けに文化芸術をやっている団体がこんなこ  
とを言っていました。これまで障がいのある方に演劇の鑑賞や人形劇の鑑賞、自分たちのア  
ート作品の発表会などをしていましたがコロナ禍でできなくなりました。そこで、障がいの  
ある方の生活リズムを変えないためにも何とかやろうと、どんな時にも芸術を届けていき  
たいという思いからオンラインで指人形劇をやることにしたそうです。どれだけできるのか  
と議論があったそうですが、いざやってみると新たな発見があったそうです。

例えば、発達障がいをお持ちの方などは家でオンライン鑑賞できるので非常にリラックス  
した環境の中で演劇を鑑賞することができた、ですとか重度の障がいで移動の困難な方は在  
宅で演劇を鑑賞することができたことで家族と一緒にその時間を共有することができた、と  
いうことでオンラインに挑戦して良かったということです。

また、障がい当事者の支援をしている団体のお話ですが、兄弟と一緒に空間や時間を過  
せた貴重な時間だったという話があったそうで、オンラインに挑戦してみて思わぬ効果があ  
ったという話もありました。

若者の居場所を提供している団体の話です。その団体が特に大事にしていることとして、  
引きこもり状態や困難な状況に直面している若者たちだけではなく、予防的などころで大学  
に行っているけど一人でご飯を食べているとかそういう子たちも対象にしている団体が、コ  
ロナの影響で本当に大変になり経営自体も悪化して困っている時に、昨年12月より普段か  
ら集まっている若者たちが「何とかこの団体を継続させよう」、「このままこの団体に潰れてもらっては困る」と



声を上げてクラウドファンディングに挑戦し、「これまで20年間団体にお世話になった」という人たちが寄付を始め、2日間で300万円を達成したそうです。ただ、団体は職員を5、6人雇っており依然として経営が厳しいのでその若者たちが「もう1ステップいこうじゃないか」と1,000万円を目標にして昨日まで募集をかけ、昨日1,000万円を超えたという報告が上がっていました。

この団体からの報告では、20年間の中でも特に困難な一年だったけれども、たくさんの人に応援してもらっている。もちろん寄付も有り難かったけれども寄付と一

緒に届くメッセージで「あの時こういうふうに声をかけてもらってすごく助かった」、「救われました」、「あれがきっかけで今こうなっています」といったメッセージが届いたことが非常に団体の力になったということが書かれていました。

### （自分たちの役割を自覚させられた）

コロナによる影響で多くの困難があったかと思いますが、多くの人たちが「自分たちの役割を改めて自覚させられた」と言っていました。私自身も日本NPOセンターで働きながら「我々の組織は何のために存在するのだろう」ということを本当に自覚させられました。

ある団体の話では、日々困難な状況で皆さんの相談を受けながらどうしたらいいんだろうと迷いながらも役割を自覚させられたと、全然きれいなストーリーではなくて本当に差し迫って考えさせられましたと言っていました。

大変な状況は続くと思いますが、こうして集まって皆で知恵を持ち寄ることは今後の活動を活発化させていく一つのチャンスだと思いますので、グループで活発な意見交換をしていただき少しでも来年のヒントを得る時間になれば良いと思います。

## グループトーク

- ・「子ども」「福祉」「まちづくり」の3グループに分かれて実施
- ・コロナ禍における各団体での取組みや現状の共有・情報交換

### ○子どもグループ

＜参加団体 3団体＞

「りぷりんと・狛江 かわせみ」

「こまえチャイルドライン」

「NPO 法人フードバンク狛江」



＜ファシリテーター＞

伊藤委員（狛江市市民参加と市民協働に関する審議会）

梶川委員（狛江市市民活動支援センター運営委員会）

### ○福祉グループ

＜参加団体 4団体＞

「狛江ともしび音楽隊」

「オレンジエコー」

「狛江電話訪問はとの会」

「元気スクールグループ」



＜ファシリテーター＞

伊東委員（狛江市市民参加と市民協働に関する審議会）

佐藤委員（狛江市市民活動支援センター運営委員会）

### ○まちづくりグループ

<参加団体 3団体>

「ごはん+居場所 おかえり」

「サポート狛江」

「エネルギーシフトを実現する こまえの会」



<ファシリテーター>

松崎委員・内海委員（狛江市市民参加と市民協働に関する審議会）

## 発表

### ○子どもグループ

コロナ禍においてどのような活動をしているかというところで、比較的これまでどおりの活動をしている団体が多かったのですが、密になってはいけないため人数を制限したり時間を短縮したりしているという話がありました。また、人数を制限していることから各団体ともメンバー同士がフォローし合って活動しているそうですが、個人の負担も増えているというのが現状のようです。

感染対策としてフェイスシールドをしたり大人数で集まらないようにしたり Zoom での打合せをしている団体もあるそうですが、Zoom はできる人できない人がいるため打合せをするだけでも大変な状況ということでした。

### ○福祉グループ

通常3グループで活動している団体で活動場所が少ない等の理由から2グループで活動しているという話がありました。別の団体ではコロナの影響で現在も活動を中止している団体が2団体ありました。

また、場所が限られていることや人数が制限されている等により今年に入ってから活動ができていない団体もあります。市への要望として施設の制限等に関して工夫をしていただきたいという御意見がありました。

音楽で高齢者施設を回っている団体では、これまでどおり大人数で直接施設に伺っての演奏ができないことから3～4人の少人数のグループで訪問したり、演奏の様子をDVDにして施設に配布しているそうです。福祉グループは皆さんのために活動していますが、コロナ禍により様々な活動が止まっているというのが現状のようです。

### ○まちづくりグループ

食品を扱う団体より、コロナ禍では非常に活動が制限されているという話がありました。が、コロナ禍で本来の自分たちの目的はなんだったろうか、自分たちが今できることはなんだろうと問い直し、お弁当や予約制という形であればできるのではないかという考えに至ったそうです。別の団体では今年の6月にイベントを実施する予定でしたが中止となり、現

在も活動ができていないというようなお話もありました。

また、今日来ている方で団体の活動とは別に小学校で読み聞かせをしている方がいらして、コロナ禍で外部の人が学校に入るのはどうなのかという意見がありましたが、子ども達はイベントもすべてなくなり給食も黙って食べているような状況で今本当に大事なことってなんだろうということを議論しました。

このまちづくりグループで大きな議題になったのがコロナに対する捉え方です。感染リスクを負ってまで集まることに意味があるのかということや、御自宅で介護をしている方や医療関係の方々等、集まりたくても集まれない方もいるので、そこは考え方を分断せずに話し合い、どこまでならできるか自分は何ができるかを捉え直していきたいという話になりました。コロナ禍で団体の意義を見直したり、一人ひとりが参加の目的や意思を表し始めたと思うので、今後はこれをどのような形で繋ぎ直すのが課題であると思います。

## 講師総括

特に子どもや福祉の分野では向き合っている当事者の方の困難性が高まっている一方で、密を避けたり自分たちもコロナに感染しないようにしなければいけないという葛藤の中だったと思います。まちづくりグループの方が言っていたように、コロナによる考え方の分断は昨年の2月頃から言われていたことです。「あの人は感染したらしい」など、そういったことで排除してはならないと言われていても、やはりそのような現象が起きており学校でもどんな場所でも一緒だったと思います。このことについては、しっかりと対話しながらどうすべきか考えるしかないと思います。本当に正解のないことだと思いますが、困った時は今日のような場に参加したり、こまめくぼは緊急事態宣言の中でも相談窓口をやっていますので様々な相談にのってもらえると思います。

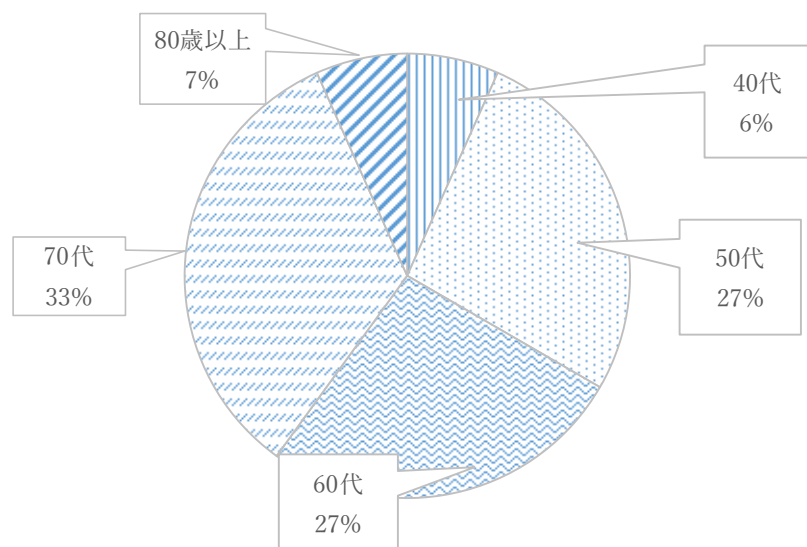
狛江の中で多様な団体があるということは非常に大きな力だと思います。今日のような対話の中で知恵を持ち寄りなんとかこの難局を乗り越え、当事者の方を支えていけるように皆さんで力を合わせていきましょう。

## アンケート集計結果

※参加者 15 人  
(うち 15 人回答)

<年齢>

- ◇20 歳未満：0 人
- ◇20 代：0 人
- ◇30 代：0 人
- ◇40 代：1 人
- ◇50 代：4 人
- ◇60 代：4 人
- ◇70 代：5 人
- ◇80 歳以上：1 人





(無回答：0人)

#### <職業>

◇学生：0人      ◇会社員：2人      ◇自営業：2人      ◇公務員：0人

◇無職：6人      ◇その他：5人

(無回答：0人)

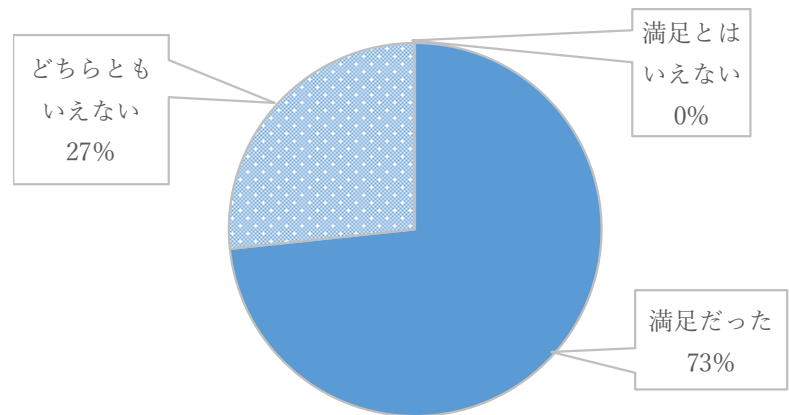
#### <本日の感想>

◇満足だった：11人

◇どちらともいえない：4人

◇満足とはいえない：0人

(無回答：0人)



- ・他の団体の活動について（内容・悩み）等、ある程度知ることができた
- ・他団体の取組みがわかりとても有意義でした
- ・狛江市で活動している団体がこんなに多くいることを知りました
- ・小さなグループでそれ以外の団体の情報も聞くことができたならより良かった。動画配信ということなので後から見せてもらいます
- ・お互いの意見交換ができると良いと思う。質問できる時間が不足して一方通行の様に思いました
- ・今回はコロナ禍で少人数の参加で残念だったが集まれて良かった。オンラインでもやってみたらどうかと思った
- ・はじめての参加でしたが、ボランティアグループの方と直接お会いし、短い時間でしたが活動を知る良い機会でした
- ・いつも出したものを議論するまでに至らない。今日は日本NPOセンター事務局次長の上田氏の話を知りたくて来ました
- ・お話できて良かったです
- ・コロナ禍でもこうした交流の機会を作ってくださいありがとうございました。内向きになりがちな活動が、こうして多様な活動をされている方々と意見交換することで視野が広がります。それは活動が豊かになるということだと思います。感謝します
- ・活動している方たちの姿が見えて良かった
- ・今後もぜひたくさんの方の団体参加があると良いなと思います

#### <今日、お話しできなかったコロナ禍での活動の工夫>

- ・他グループとの横のつながりを模索し、今後の活動に繋げたい

- ・電話の送話口を個々に不織布でのカバーを用意して毎回取り換えながらしている。人数も制限している
- ・活動ができない団体から、忙しい団体にボランティアで関わりができれば良い
- ・少人数で工夫して活動する。体調が悪い時は直前でも休んでもらう
- ・高齢のメンバーがいる活動（合唱）をしているのですが、コロナに感染しないことが生きていくことにはならないことを学ばせていただきました。生きるということはどうやって豊かな日常を作っていくか、90代のメンバーにとっては今が大切であること、自分で考え選択することの大切さを教わっています

<行政と市民活動団体が一緒に取組むと良い協働事業はありますか>〔複数回答可〕

- |             |                  |                 |
|-------------|------------------|-----------------|
| ◇防災・災害支援：6人 | ◇障がい者支援：5人       | ◇介護（予防・サービス）：2人 |
| ◇子育て：10人    | ◇青少年：1人          | ◇環境・自然：3人       |
| ◇スポーツ：0人    | ◇学習・学び：3人        | ◇文化・芸術・音楽：5人    |
| ◇地域活動：2人    | ◇その他：1人（学ぶということ） |                 |

★具体的な取組み内容

- ・交流できると楽しく活動できる
- ・子育て応援は行政との連携でできたら良いと思います
- ・家族キャンプなどの企画は①防災・災害支援、④子育て、⑥環境・自然の要素が加わり世代を超えて楽しめるように思います
- ・コロナで今はすべて行政の支援を必要としています、まずはワクチンですね
- ・学習支援員の養成・派遣
- ・多世代交流のイベント、企画、課を超えた連携

<狛江☆サミットで取り上げてほしいテーマなど、ご自由にご記入ください>

- ・年に何回か開催してほしい。読み聞かせをしている他団体との横のつながりを持ちたい  
広く地域貢献につながる
- ・（こまえくぼさんへのお願い）オンライン操作方法の講座開設
- ・各団体の横のつながり等、お互いに助け合うことができるようになるような話し合いでも良いかと
- ・それぞれの活動を知り、お互いに協力し合えるところがあれば交流していきたい。例えば講演会など
- ・貧困問題（コロナ禍）
- ・狛江市の未来
- ・短い時間でしたが、とてもよくまとめられていました。グループの話し合いがあと10分間位長いのがベターかと思いました
- ・資金面でどう取組むか地元商店や企業をゲストで招く
- ・教育

- ・団体の活動場所である公民館との協働で行っていただきたいです。コロナで公民館が大変だったので
- ・「こまえくぼ 1234 をもっと市民に届くようにするには…」。いつもありがとうございます
- ・多世代の居場所、多世代のつながり

## 動画配信

「参加と協働市民フォーラム 第5回狛江☆サミット」は令和3年3月15日より市公式YouTubeチャンネルで動画配信しています。

当日の様子はこちらから→

